

熊本県立八代中学校 令和4年度(2022年度)学校評価表

1 学校教育目標						
<p>「令和4年度(2022年度)県立中学校・高等学校における教育指導の重点」、「令和4年度(2022年度)義務教育課取組の方向」を基盤として本校の綱領である</p> <p>・「誠実にして真理を愛する」 To love truth, being sincere.</p> <p>・「自律を旨として協和を重んずる」 To respect harmony, being self-determined.</p> <p>・「闊達にして進取の氣象を尚ぶ」 To develop a spirit of enterprise, being broad-minded.</p> <p>を教育理念の根底におき、生徒の知性と品性、豊かな感性と闊達な行動力を育むとともにグローバルな視野を切り拓く教育を実践する。</p>						
2 本年度の重点目標						
<p>八代高校・八代中学校のさらなる魅力化</p> <p>① 確かな学力(授業で勝負)</p> <p>② 豊かな人間性(多様な教育活動)</p> <p>③ グローバル化(世界とつなげる)</p> <p>④ 情報発信力(地域との連携)</p>						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	グローバル人材育成	◇グローバルマインド並びにグローバルスキルを身に付けるための基礎力養成	<p>○総合的なコミュニケーション能力育成のために、学校設定科目「対話力」を効果的に実施する。</p> <p>○各種ボランティア活動への自主的参加者年間延べ150名以上を目指す。</p>	<p>・NIE、ディベート、MESE、ビブリオバトル、知の触発等の活動を充実させ、言語活用能力やコミュニケーション能力の伸長を図る。</p> <p>・活動の最新の様子について、HPで常に公開する。</p>	B	<p>・「対話力」の時間は、NIE、日本語や英語ディベート、英検対策、ビブリオバトル等々充実した取り組みを行うことができた。「知の触発」では年4回の講演会を実施することができた。</p> <p>・HPの更新については、内容の充実化やタイムリーな発信を行うためのマニュアル化が必要であると感じる。</p>
	情報発信	◇中高一貫ブランドデザイン再設計	<p>○質の高い中高一貫校としての教育課程を編成する。</p> <p>○各教科が6年間に渡る教科指導の流れを示したブランドデザインを作成する。</p> <p>○「対話力」の授業をホームページにアップする。</p>	<p>・「対話力」についてより効果的な実施という観点から計画を見直し、内容を精選する。</p> <p>・グローバル改革推進部を中心にブランドデザインを検討し完成する。</p> <p>・英検対策や知の触発プログラム講演会をタイムリーにホームページにアップする。</p>	B	<p>・「対話力」の時間は、計画の調整や見直しを行いながら、授業を実施することができたが、内容については前年度までの踏襲である。英語の授業が多く、理系の内容が見られないことが課題であり、来年度はMESEが実施できなくなるので、新しい内容を盛り込む必要がある。</p> <p>・HPについては、充実化を図るための対策が必要である。</p>

<p>学校経営</p>	<p>業務改善及び働き方改革の推進</p>	<p>◇勤務時間の適正管理 ◇業務の削減・効率化</p>	<p>○月の時間外在校等時間平均を前年度比で10ポイント削減する。 ○校務においてICTを活用し、配付資料や会議資料のペーパーレス化を進めたり、専門家を有効活用し、計画的に業務を遂行する。</p>	<p>・タイムカード等による勤務時間の適正管理等に加え、各部部长や管理職による業務進捗管理を行う。 ・ゆうネットやGoogleアプリを活用した情報共有を推進し、業務効率化を進める。 ・SC、SSW、部活動指導員等の専門人材を積極的に活用する。</p>	<p>C</p> <p>・タイムカード等により在校時間を把握し、長時間勤務が認められる教職員には管理職による面談を実施して状況を把握し、必要に応じて業務の再配分を行った。 ・月の時間外在校等時間平均(4月～12月)は、昨年度42時間57分から今年度47時間21分になり、前年比1.1%増加となった。 ・SCの活用については12月までに生徒54件の相談があった。 ・部活動指導員を新たに2人配置し、生徒の技術の向上や教職員の負担軽減に成果を上げた。</p>
<p>学力向上</p>	<p>教師の指導力向上</p>	<p>◇アクティブラーニングの視点、ICT活用学力の3要素を踏まえた授業改善</p>	<p>○生徒による授業評価において各教科のアクティブラーニング、ICT活用、学力の3要素を踏まえた授業実践についての肯定的評価が85%を超える。</p>	<p>・授業力向上のため、公開授業週間の設定、各種研修会への参加やスーパーティーチャーの指導を仰ぐ機会を提供する。 ・生徒による授業評価を年2回実施する。 ・ICT活用やアクティブラーニングに取り組んだ授業を、各教科で常時実施する。</p>	<p>A</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を図るため、7月と11月に公開授業週間を計画し、職員間で授業を自由に参観できるように設定した。8割以上の職員が授業改善に意欲的に取り組んでいるとの回答であった。また、「生徒同士で学び合う場面の設定や、積極的にICTを活用した授業が行われている」の項目に対する生徒の肯定的回答は、98.1%(昨年度94.6%)と高評価であった。</p>
<p>学力向上</p>	<p>生徒の自発的な学習の促進</p>	<p>◇予習→授業→復習のサイクルの確立及び教科等の学習の統合、転用、活用の促進</p>	<p>○学年ごとの目標学習時間を設定し、60%以上の生徒が目標を達成している。</p>	<p>・年3回、期末考査前に宅習時間調査を実施して家庭学習、読書等の指導に活用する。</p>	<p>B</p> <p>宅習時間調査を行うことで家庭学習への意識付けを行った。学校評価アンケートにおいて、「目標とする家庭学習時間を確保できている」に肯定的回答をした生徒は57.0%(昨年度60.8%)であった。中1年は、目標時間を大幅に超えており、数学、英語を中心によく頑張っている。中2、3年は、過去5年間の中でそれぞれ2番目に学習時間が多いが目標には届いていない。中3年は、高校数学Iの学習内容を先取りしているのでさらなる学習時間の確保が必要と考えている。</p>

キャリア教育 (進路指導)	進路目標の明確化と大学入試新テストに対応できる学力を身に付けさせる指導	◇6年間を見通す進路指導グランドデザインの完成	○大学入試新テストを受ける生徒に求められる学力を育成するための、6年間の指導方針を完成する。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の学力推移調査の結果をもとに学力検討会を行い、課題点や進路意識を把握し、教科指導や進路指導に活かすなど共通理解を図る。 様々な自己研鑽や社会貢献活動を通して自己の進路を考えさせるための情報提供を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学力推移調査の結果をもとに学力検討会を行い共通理解を図った。 3年生はハイレベルテストを実施し、約36%の生徒が受検し進路意識を高めた。(昨年度約23%) 1年で大学の概要を知り2年で進路資料を用いて学部学科を調べ3年で面談を通し目標の明確化を図った。
	生徒の進路観、職業観の育成	◇個人の活動体験の活動体験データをポートフォリオ形式で蓄積	○社会と関わり、社会の内包する様々な課題に気づかせ、将来の学びに触れる機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> ポートフォリオ形式によるデータ管理の指導と、各種の体験活動や講演会など、他の部署と協力して実施する。 キャリアパスポートの活用を行い、自己の進路意識を確認する場を設ける。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 1年は八代学で地域社会の課題への認識を深め提案をレポートにまとめた。2年は企業の講演会を実施し職業観と勤労観を涵養し、職業調べをレポートにまとめ発表することができた。3年は卒論執筆を通して進路意識を高めた。
生徒指導	自由と規律に基づく自律的な行動	<ul style="list-style-type: none"> ◇きまり・心得遵守 ◇観察と情報共有 ◇率先垂範 	<ul style="list-style-type: none"> ○5分前行動、挨拶の励行、服装・頭髮の整備を自ら行うことができる生徒を育成する。 ○生徒情報の共有及び学校からの情報発信を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝の登校指導を利用し、服装の整美、時間厳守、挨拶を指導していく。 教員同士及び教員と保護者との情報交換を密に行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学級担任を中心に朝8時5分に登校状態や体調確認等を実施し、生徒の状況把握に努めた。出席状況や整容・行動・様子などで気になる生徒については、学年毎の朝の打合せで情報を共有し、迅速な対応を図った。また、定期的な中学部会において気になる生徒について情報交換を行い、生徒理解に努めた。
	生徒の危機管理能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ◇登下校時の緊急事態への対応 ◇SNS等の不適切な使用方法への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ○交通マナーを遵守し、登下校時における交通事故の防止に努める。 ○登下校時の不審者事案などに対して適切な対応ができるようにする。 ○「ネット依存」や、不正請求などの「ネット被害」、SNSによるトラブルなどへ適切な対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○被害者・加害者にならないために交通事故に関する情報提供を行う。 ○防犯メール等を確認する習慣を身につけさせ、自分の身は自分で守ることを意識させる。 ○適切にICTを活用し、情報社会を安心・安全に生き抜くため情報を生徒・保護者へ提供する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 自転車等による重大な交通事故は発生しなかったが、登下校時に接触等の軽微な事故はありチラシ等で注意喚起した。 ネットを介しての重大な事故・被害はなかったが、携帯電話(ラインアプリ等)による写真掲載など友人同士の軽微なトラブルがあった。長期休業に入る前に注意喚起を行ったが、SNSの不適切な使用は今後ますます増加することが懸念されるため継続した指導が必要である。

	<p>人権問題の正しい認識と差別をなくす実践力の育成</p>	<p>◇地域の人権課題の実状を踏まえた人権意識の向上 ◇人権問題に関わる実践力を高めるための中高一貫6年間を見通した各学年の目標設定と取組</p>	<p>○部落差別をはじめ、あらゆる差別の解消に取り組む生徒を育成する。 ○職員一人一人が人権問題に関する基本的認識を確立し、人権教育を推進する。</p>	<p>・人権部落問題学習(学年ごとに学期1回)及び校内人権集会(2回)を実施するとともに、地域の子ども人権集会への参加を呼びかける。 ・八代地区人権同和教育・人権啓発研究集会(原則全員)及び現地研修会(新転任者及び希望者)に参加する。 ・人権教育通信を学期2回以上発行し、啓発を図る。</p>	<p>A</p> <p>・人権部落問題学習を各学年で企画し、水俣病をめぐる人権問題や男女共同参画のあり方、部落差別の歴史等について学び、人権感覚の向上を促した。一方、人権集会ではハンセン病問題に関して当事者の講話を聞き、差別の根深さと啓発の重要性について認識を深めた。 ・市の研究集会や、本校企画の現地研修会に参加し、地域の人権部落問題について深く学び、自らの実践を振り返った。 ・人権教育通信を学期3回発行し、人権に関する啓発に努めた。</p>
<p>人権教育の推進</p>	<p>生徒が適切な教育上の支援を受けられる体制の整備</p>	<p>◇個々の多様性(障がいの有無や性別の違いなど)を認識してお互いを支え合い、すべての生徒が生き生きとした学校生活を送るための取組</p>	<p>○支援を要する生徒の実態把握と共通理解に努める。 ○個別的教育支援計画及び指導計画を立てるとともに、予防的な指導及び支援の充実を図る。</p>	<p>・教育相談週間を設け、丁寧に生徒の状況を把握するとともに、授業時や学校生活の中でのきめ細やかな観察を通じた情報収集をもとに、生徒理解研修を年3回実施する。 ・定期的到人権教育部会を開催し、情報共有を図るとともに、特別支援教育委員会を適宜開催する。 ・個別的教育支援計画及び指導計画を立て、それに基づき支援を進める。</p>	<p>A</p> <p>・学期ごとに生徒理解研修を実施し、支援を要する生徒に関する情報を共有すると共に、支援のあり方に関して協議し職員の共通理解を図った。また、学年会や人権教育部会においても週1回生徒の情報交換を行い、問題事案に関しては迅速な対応を行った。 ・特別支援教育委員会を適宜開催し、協議の上、対象生徒の個別の支援計画を作成し、保護者とも連携し個々に応じた支援体制の充実を図った。また、支援員との連携を密にし、対象生徒の支援に努めた。</p>
<p>命を大切にす る心を育む指導</p>	<p>◇自他の生命を尊び、大切にしていこうとする態度の養成 ◇自らの在り方生き方を学び、夢や目標の実現に向けて努力する態度の育成</p>	<p>○すべての教員が学習活動において生徒の人権感覚を育む指導を行う。 ○社会貢献活動や自己研鑽活動をとおり、生命や自然に対する畏敬の念を高める。</p>	<p>・自らの教科において人権教育と関連する学習内容を確認するとともに、人権感覚を高める学習指導を行う。 ・ボランティア活動や自己研鑽活動への積極的な参加を促す。</p>	<p>B</p> <p>・職員研修において、部落差別の問題点をはじめ、人権感覚を磨くために必要な人権問題全般の情報更新をすることができた。一方で、教師の対応、発言の重みが指摘され、組織として人権感覚を向上させていくことの重要性を改めて共有できた。 ・人権集会やLHR、人権教育通信などを通じて、被差別の状況にある当事者の思いに触れさせることを心がけ、人権意識の高揚を図った。</p>	

いじめの防止	いじめの予防と発生した際の早期発見と対応	◇いじめを未然に防ぐための予防的取組 ◇いじめの早期発見と早期対応	○日常の授業や面談を通して生徒の状況を的確に把握する。 ○定期的なアンケート調査により、いじめの早期発見に努める。	・学期に1回「心のアンケート」を実施し、いじめの防止・早期発見に努める。 ・学期に1回いじめ防止対策委員会を開催し、実態把握と早期発見・対応を行うとともに、スクールカウンセラーや関係機関との連携を図る。	B	・教育相談週間や心と体のアンケートを通じて、生徒の実態を把握すると共に、学期に1回行う心のアンケートをもとに、いじめ問題の早期解決のために、面談や周囲への聞き取り等を丁寧におこなった。 ・いじめ防止対策委員会を開催し、生徒のおかれた状況をきめ細かく把握し、いじめの防止と対策に努めた。また、スクールカウンセラーや関係機関と連携し支援体制の構築を図った。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	コミュニティ・スクールの活性化	◇地域とともにある学校づくり	○総合型コミュニティ・スクール(学校運営協議会)を通して、育成を目指す生徒像の共有を図り、地域と連携・協働した取組を推進する。	・「総合的な学習の時間」において、地域と連携した探究活動を実施する。 ・地域の理解と協力を得ながら、防災教育等を進め、生徒の安全・安心を確保する。	A	・地域の史跡巡り、地域でのフィールドワーク、地域の方を講師として招きお話を聞くなどの取り組みを行い、地域振興を目標に探究活動を行った。 ・学校運営協議会において市役所防災課担当からの説明を踏まえ、本校周辺地域の特徴を踏まえた防災のあり方を協議した。

4 学校関係者評価

- ・令和4年12月、保護者及び生徒、教職員を対象に学校評価アンケートを実施した。評価項目数は、保護者20項目、生徒19項目、教職員24項目であり、評価平均は保護者3.1、生徒3.3、教職員3.2(4段階)であった。
- ・三者とも「ボランティア活動や社会貢献活動」「総合的な学習の時間における地域に目を向けた探究活動」における評価は高かった。
- ・一方、「生徒の学習を喚起する取組／家庭学習時間の確保／宅習時間調査を活用した指導」では評価が低かった。
- ・今年度から特に重点的に取り組んだ「情報発信」について、「本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えていく」という項目については、保護者3.0、生徒3.1、教職員3.2という結果になった。
- ・令和4年12月、第2回学校運営協議会を书面開催した。以下は、委員からの主な御意見。
 - ・「国際バカロレア」は今回初めて知った。PTAのみならず、地域にもっと情報発信されて貴校のさらなる魅力向上に努めてほしい。
 - ・12月17日の国際バカロレア啓発セミナーに参加し、理解を深めることができた。九州内の公立校では初導入となることから、学校関係者をはじめ多くの方々が注目されていると思うが、保護者や子どもたちにはまだ馴染みがない。令和6年度の導入に向けて引き続き周知啓発活動に力を入れてほしい。
 - ・地域を交えて避難所運営訓練等ができないか。
 - ・宅習時間を上げるための授業の工夫が必要である。
 - ・挨拶の状況がよくない。
- ・令和5年2月13日、第3回学校運営協議会を開催した。以下は、委員からの主な御意見。
 - ・挨拶の状況がよくない。
 - ・家庭学習の時間を定着させるための具体的な取組を期待したい。
 - ・生徒一人一人に合った学習スタイルと一緒に考えたり、きっかけを作ってもらいたい。
 - ・自転車の乗り方やマナー等の改善をお願いしたい。
 - ・小学校や近隣住民と連携した住民参加型の防災訓練を実施してはどうか。

5 総合評価

- ・本年度は、重点目標として「①確かな学力(授業で勝負)」「②豊かな人間性(多様な教育活動)」「③グローバル化(世界とつなげる)」「④情報発信力(地域との連携)」を掲げ、教育活動を行ってきた。
- ・「3 自己評価総括表」で掲げた14の小項目については、保護者、生徒、教職員による学校評価アンケートや学校運営協議会委員の御意見等を踏まえ、A評価5、B評価8、C評価1(前年度は、A評価7、B評価7)とした。
- ・「①確かな学力」について、小項目「教師の指導力向上」では、授業評価や公開授業週間の実施、ICT研修等を行い、生徒による授業評価では、全職員の平均は授業改善の工夫で昨年度と同じ3.4(4段階)であった。一方、生徒の宅習時間は、各学年で設定した目標時間を達成できない学年もあった。学校評価アンケートでも、学習意欲を喚起する取組(保護者)や家庭学習時間を確保できていない(生徒)、宅習時間調査を家庭学習等の指導に活用(職員)の項目で評価が低く、本校の課題の一つと考えられる。
- ・「②豊かな人間性」について、大項目「地域連携」に記載のとおり、地域の協力を得ながら探究活動に取り組むことができおり、次年度以降も探究活動等を中心に、地域と連携を図りながら教育活動を推進していきたい。
- ・「③グローバル化」について、小項目「グローバル人材育成」において、コロナ禍で直接の交流ができない状況の中、中国北海市とのオンライン交流や県下のALT8名を招へいしてのイングリッシュキャンプを行うことができた。また、小項目「生徒の進路観、職業観の育成」では、1年で地域社会の課題等への認識を深める「社会学」を、2年では様々な職業の方とオンラインで話を聞き、職業観を養い、3年では、卒業論文の執筆を通して進路意識を高めることができた。
- ・「④情報発信」では、今年度の学校評価に小項目「情報発信」を新たに設定し、本校の教育活動を広く地域の方々にお知らせするHPにおける発信を、2月1日の時点で43件行った。また、地域の小学校、塾等に延べ150回ほど訪問し、本校の教育活動及び令和6年度から導入予定のIB教育について周知を図った。
- ・C評価とした小項目「業務改善及び働き方改革の推進」については、タイムカード等による勤務時間の適正管理やデジタルツールを活用した情報共有を推進した業務効率化、外部人材等の積極的な活用により、月の時間外在校等時間平均を前年度比10ポイント削減する目標に掲げたが、達成することができなかった(前年度比1.1ポイント増)

6 次年度への課題・改善方策

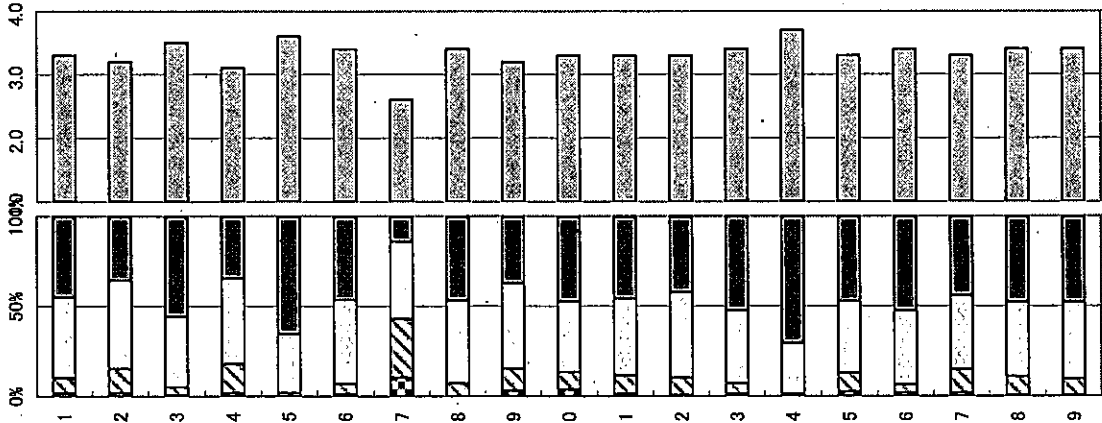
次年度への主な課題と改善方策は次のとおり。

- ・本校の魅力づくりについては、令和6年度から導入を始めるIB教育について、全職員が理解をさらに深め、目指す生徒像を基軸とした授業づくりを次年度から推進していく。また、地域の学校、教育機関、保護者等への周知・啓発活動をさらに進め、他校にはない本校独自の教育活動について情報を発信していく。
- ・宅習時間の確保については、宅習時間調査において、Googleアプリ等を活用するなど、日常的に生徒の学習状況を把握し、授業改善も含め指導に生かしていく。
- ・生徒指導においては、日常的な挨拶や自転車利用時のマナー等への指導を重視し、心身ともに健全な生徒の育成を進める。
- ・防災教育においては、近隣学校や住民と連携した住民参加型の防災訓練の実施を検討する。
- ・業務改善や働き方改革の推進については、タイムカード等による勤務時間の適正管理を進めるとともに、ICTを活用した業務の効率化、SCやSSW、部活動指導員(外部コーチも含む)の積極的な活用を進めていく。

令和4年度 学校評価 集計表 <生徒> (中学校)

	① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回 答 数	平 均	R 3 平 均
① ① ② ③ ④	1.9	8.3	44.6	45.2	157	3.3	3.5
① 知的触発プログラム、ピプリアバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	1.9	13.4	49.0	35.7	157	3.2	3.1
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	0.6	4.5	39.1	55.8	156	3.5	3.5
③ 八代中には、他の学校にはない校風・特色がある。	1.9	16.0	47.4	34.6	156	3.1	-
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	0.0	1.9	32.5	65.6	157	3.6	-
⑤ 学校では、生徒同士で学び合う場面の設定や、積極的にICTを活用した授業が行われている。	1.3	5.7	46.5	46.5	157	3.4	3.4
⑥ 学校では、生徒の学力を伸ばす様々な工夫を行っている。	10.3	32.7	42.9	14.1	156	2.6	2.6
⑦ 私は、目標とする家庭学習時間を確保できている。	0.0	7.1	46.2	46.8	156	3.4	3.5
⑧ 学校では、総合的な学習の時間や学活などで、自らの進路を考える活動が行われている。	3.2	12.2	47.4	37.2	156	3.2	3.2
⑨ 学校では、進路に関する情報をわかりやすく提供してくれる。	3.8	9.6	39.1	47.4	156	3.3	-
⑩ 学校では、先生方の共通理解のもと、不公平のない生徒指導が行われている。	1.3	10.3	42.6	45.8	155	3.3	3.3
⑪ 私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を心がけている。	0.6	9.6	47.4	42.3	156	3.3	-
⑫ 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	1.3	5.8	40.4	52.6	156	3.4	-
⑬ 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	0.6	0.6	28.2	70.5	156	3.7	3.6
⑭ 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	2.6	10.3	39.7	47.4	156	3.3	3.2
⑮ 先生方は、生徒の悩みや相談に親身になって応じてくれる。	1.9	4.5	41.0	52.6	156	3.4	3.4
⑯ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	1.9	12.8	41.0	44.2	156	3.3	3.2
⑰ 学校は、いじめを防止するために様々な取組や配慮がなされている。	0.6	10.3	41.3	47.7	155	3.4	3.4
⑱ 総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動が行われている。	0.6	9.0	42.6	47.7	155	3.4	2.9
⑲ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。							

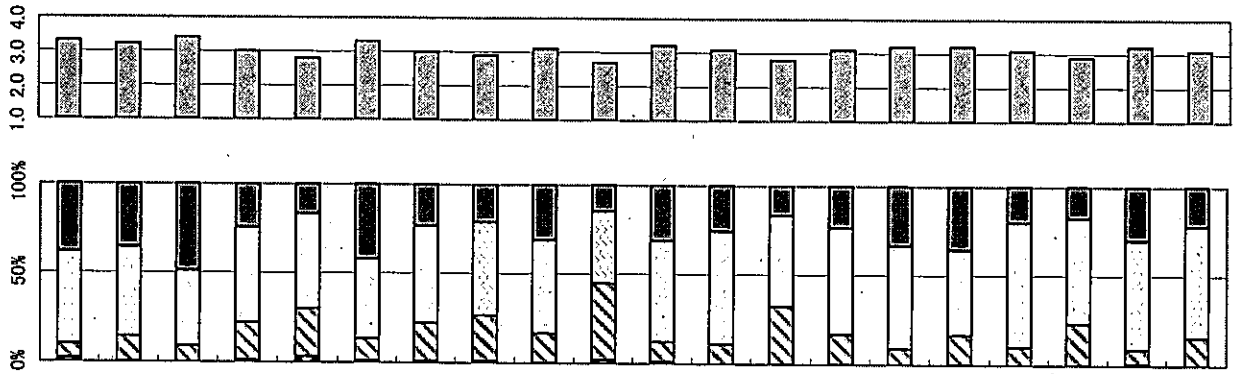
(%) (人)



令和4年度 学校評価 集計表 <保護者> (中学校)

4

① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回答数	平均	R 3 平均
----------------------------	-----------------------------	--------------------------	--------------------------	-----	----	--------------



項目	① 全く当て はまらない (1点)	② あまり当て はまらない (2点)	③ やや当て はまる (3点)	④ よく当て はまる (4点)	回答数	平均	R 3 平均
① 知の触発プログラム、ピリオバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	2.2	7.9	51.7	38.2	89	3.3	3.5
② 学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	0.0	14.4	50.0	35.6	90	3.2	3.3
③ 八代中には、他の学校にはない校風・特色がある。	0.0	8.9	42.2	48.9	90	3.4	3.4
④ 本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力伝えていく。	1.1	21.1	53.3	24.4	90	3.0	-
⑤ スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門的人材が積極的に活用されている。	3.3	26.7	53.3	16.7	90	2.8	2.8
⑥ 学校は、保護者に授業参観や公開授業の機会を適切に設けている。	1.1	12.2	44.4	42.2	90	3.3	2.9
⑦ 学校は、生徒の学力を伸ばす様々な工夫を行っている。	1.1	21.1	54.4	23.3	90	3.0	3.0
⑧ 学校は、生徒の学習意欲を喚起する取組を行っている。	1.1	25.6	52.2	21.1	90	2.9	2.9
⑨ 学校では、学年の段階に応じて、総合的な学習の時間や学活などを通して、生徒が自らの進路を考えるための取組を行っている。	0.0	16.7	52.2	31.1	90	3.1	3.1
⑩ 学校は、進路に関する情報を保護者に適切に提供している。	2.2	42.7	40.4	14.6	89	2.7	2.7
⑪ 学校は、生徒の実態や人権尊重の立場から適切な校則を設けている。	1.1	11.1	56.7	31.1	90	3.2	-
⑫ 子どもは、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶をしている。	0.0	11.1	63.3	25.6	90	3.1	3.1
⑬ 学校では、交通安全についての啓発活動が行われている。	0.0	32.2	51.1	16.7	90	2.8	-
⑭ 学校では、情報モラルについて学ぶ機会がある。	0.0	16.9	59.6	23.6	89	3.1	-
⑮ 学校では、人権の大切さについて学ぶ機会がある。	0.0	8.9	57.8	33.3	90	3.2	3.1
⑯ 先生方は、子どもの悩みや相談に親身になって応じてくれる。	0.0	16.7	47.8	35.6	90	3.2	2.9
⑰ 学校では、命の大切さについて学ぶ機会がある。	0.0	10.1	69.7	20.2	89	3.1	2.9
⑱ 学校は、いじめを防止するために様々な取組や配慮がなされている。	0.0	23.3	58.9	17.8	90	2.9	2.8
⑲ 総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動が行われている。	1.1	7.8	61.1	30.0	90	3.2	3.2
⑳ 学校では、防災避難訓練や防災について学ぶ機会がある。	0.0	15.6	62.2	22.2	90	3.1	2.9

(%) (人)

令和4年度 学校評価 集計表 <中学校教職員>

R 3 平均	回 答 数	④ よく当て はまる (4点)	③ やや当て はまる (3点)	② あまり当て はまらない (2点)	① 全く当て はまらない (1点)	R 3 平均			
						3.4	3.8	3.4	
①	12	75.0	25.0	0.0	0.0	知の触発プログラム、ビブリオバトル、英検対策等の取組は、言語能力を伸ばすのに役立っている。	3.4	3.8	3.4
②	13	46.2	46.2	7.7	0.0	学校では、ボランティアや社会貢献活動などの体験的活動への参加の紹介が行われている。	2.9	3.4	2.9
③	13	15.4	69.2	15.4	0.0	中高一貫教育校としての組織体系が確立され、中高連携の取組が円滑に行われている。	2.2	3.0	2.2
④	13	46.2	46.2	15.4	0.0	本校の教育活動や生徒の様子等を、タイムリーに発信し、本校の魅力を伝えている。	-	3.2	-
⑤	13	30.8	38.5	30.8	0.0	タイムカード等による勤務時間の適正管理、管理職や産業界による面接体制が整っている。	3.2	3.0	3.2
⑥	13	53.8	15.4	30.8	0.0	Googleアプリを活用した情報共有により、業務効率化が図られている。	3.2	2.8	3.2
⑦	13	46.2	46.2	7.7	0.0	スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、部活動指導員等の専門人材が積極的に活用されている。	3.2	3.4	3.2
⑧	12	33.3	50.0	16.7	0.0	学校は、授業力向上のための教科等研修会に参加する機会を適切に提供している。	2.9	3.2	2.9
⑨	12	33.3	50.0	8.3	8.3	私は、職員間の授業見学や生徒による授業評価等を通して、授業改善に取り組んでいる。	2.7	3.1	2.7
⑩	12	25.0	50.0	25.0	0.0	私は、各学期に実施される宅習時間調査を、家庭学習や読書等の指導に活用している。	2.7	3.0	2.7
⑪	13	23.1	53.8	23.1	0.0	私は、学年の段階に応じて、総合的な学習の時間や学活などを通じて、生徒が自らの進路を考える取組を行っている。	3.3	3.0	3.3
⑫	13	7.7	38.5	38.5	7.7	私は、進路に関する情報を生徒及び保護者に対し適切に提供している。	2.6	2.5	2.6
⑬	13	23.1	61.5	23.1	0.0	職員の共通理解を図り、学校として統一した生徒指導が行われている。	2.7	2.9	2.7
⑭	13	0.0	69.2	0.0	0.0	私は、日頃から服装の整美、時間厳守、挨拶を指導している。	3.4	3.3	3.4
⑮	13	15.4	30.8	15.4	0.0	学校は、交通安全についての啓発活動を行っている。	-	3.4	-
⑯	13	7.7	61.5	7.7	0.0	学校は、情報モラル教育を計画的に行っている	3.2	3.2	3.2
⑰	13	46.2	53.8	0.0	0.0	学校は、生徒及び職員の人権意識の高揚を図る取組を適切に行っている。	3.2	3.5	3.2
⑱	13	46.2	53.8	0.0	0.0	生徒理解研修等を通して、支援を要する生徒の実態把握と共通理解が図られている。	3.4	3.5	3.4
⑲	12	50.0	33.3	16.7	0.0	個別の教育支援計画及び指導計画をもとに、必要な支援を適切に行っている。	3.3	3.3	3.3
⑳	13	38.5	38.5	23.1	0.0	学校では、命を大切にすることを育む教育を適切に行っている。	3.0	3.2	3.0
㉑	13	38.5	53.8	7.7	0.0	学校は、いじめを防止するために様々な取組や配慮がなされている。	3.3	3.3	3.3
㉒	13	53.8	38.5	7.7	0.0	学校は、総合的な学習の時間等において、地域に目を向けた探究活動を推進している。	3.3	3.5	3.3
㉓	13	53.8	46.2	0.0	0.0	学校では、防災に関する取組を計画的に行っている。	3.1	3.5	3.1

